

こんにちは。
町長です。



創立70周年を迎えた 埼玉県立小鹿野高等学校について

西秩父地域で唯一の県立小鹿野高等学校は、昨年度、創立70周年を迎えました。戦後間もない昭和23年4月に県立秩父農業高等学校小鹿野分校としてスタートし、昭和28年4月から県立小鹿野高等学校となり今日まで至ります。これまでに多くの卒業生を輩出し、小鹿野町内はもちろん国内外で活躍している人材を育てて参りました。

小鹿野高等学校は、社会情勢の変化により様々な変遷を歩みますが、近年では、1学年3クラスで定員120名となり、県内でも小規模校の一つとなっています。小規模校のメリットを生かし総合学科の高校として、生徒一人ひとりの多様性を伸ばす教育が行われています。

また、埼玉県教育委員会のご理解ご高配を賜る中で、県内では唯一、平成24年度から「山村留学」制度が試行されています。この制度は、高校で取り組んでいるスポーツや文化などに興味、関心を持つ遠方からの希望者を、小鹿野町の宿泊施設（現在は須崎旅館、国民宿舎両神荘の2カ所）で受け入れて、高校生活を送るものです。保護者の元を離れて宿泊しながら自然や文化が豊かな町で高校生活が送れることで、今まで40人を越える生徒がこの制度を利用しています。

特に野球部では外部コーチとして、高校、大学、社会

人野球で活躍し、その後、早稲田大学野球部や社会人野球プリンスホテルの監督、プロ野球読売巨人軍球団編成本部長補佐などを務められた石山建一氏を招聘して、多くの山村留學生が集まっています。

小鹿野高校野球部の活躍は、高校はもちろん当町にも活気や元気を与えています。

小鹿野高等学校は、当町をはじめとする西秩父地域にとっては不可欠な存在です。特に西秩父地域は広大な面積を有しますが鉄道もなく、他地域へ通学するのも大変不便な地域です。この地域に高等学校があるということは、町のイメージにとっても重要なことであり、また高校を卒業した人材が地域を担って行く力となっています。

ところで現在、埼玉県教育委員会では、社会ニーズに対応した特色ある高校の設置や、教育環境整備のための県立高校の再編整備についての方針を定め、再編整備の進め方として当町に関係する北部及び秩父地域で、2~3校の再編整備を行うことを検討しているとのことです。

当町としても埼玉県教育委員会、小鹿野高等学校と密接な連携を図りながら、このことに対応して参りたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎